

さかわ通信



HIGH LIGHT

Happy Sunday

～教会夏祭り～

8/17(日)13時半、Happy Sunday「教会夏祭り」を開催しました。

♥やっぱり夏はすいかだね！

雨が降らず連日の激暑🌧️すいかの値段も高騰し、丸一個を買う機会はなかなか無かったのではないのでしょうか。でも、夏祭りが近づくにつれ少しずつ値が下がり、美味しいすいかが二つ、用意されました。応援で喉が渇いた後のすいかの味は最高でした。



♥ふしぎな工作も楽しかったよ

絵を描いて色を塗り、水を垂らすとあら不思議！モコモコとふくらんできます。おもしろそうなサクランボ、かわいい花、アンパンマンの顔も上手にできました。子どもも大人も夢中になった一時です。

♥讃美集会

酒匂キリスト教会は、聖書から神さまのみことばを聴き、みことばの恵みを分かち合う教会です。すると、神さまへの感謝と賛美が沸き上がります。それは、神の御国に包まれた喜びです。詩篇 103:2 わがたましいよ【主】をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな。



世界チャリティーバザー2025

日:10月18日(土)

時間:11時半～14時

今年も世界チャリティーバザーを開催します。教会でゆっくり昼食やスイーツを召しあがってください。その収益金と皆様からの募金を、ケニアの障がい児施設「シロアムの園」と、国境なき医師団にささげます。どうぞよろしくご協力ください。

酒匂キリスト教会 集会案内



- 礼拝 日曜日 11時～12時10分
- JoyJoy礼拝(日曜学校) 10時～10時40分
- ふれあいカフェ 第二火曜 11時半～14時
- 歌声チャペル 第四火曜 14時～15時半
- ぶどうの木(祈祷会)木曜 10時～11時40分
- 聖書講座 お問合せください



待つこと、信頼すること

2025.7.28礼拝メッセージより抜粋

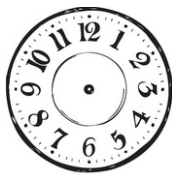
牧師 勝俣慶信

「待つ」には忍耐が必要です。

同時に信頼も不可欠です。

「部下が成長するまで待つ」と言えばピンときます。でも、なかなか待つのが難しいのが私たちです。

聖書には「時」を表わす二つの言葉があります。「今何時」と答えられる時間を「クロノス」といいます。誰でも測れる時間です。もう一つは「カイロス」といい、「神さまの時」のことです。これは人間には分かりません。神さまだけが御存知で、神さまが働いてくださる時のことです。「今思えば、あれは神さまのタイミングだった。神さまの時だった。」と思えることがあります。それが「カイロス」です。私たちはクロノスに追われて忙しく動いていますが、神さまの時・カイロスがあることを知って、見上げる必要があります。神に信頼し祈って待つことは、人生に不可欠な知恵となります。



詩篇27篇1～3節

27:1 主は私の光 私の救い。だれを私は恐れよう。

主は私のいのちのとりで。だれを私は怖がろう。

27:2 私の肉を食らおうと悪を行う者が私に襲いかかったとき崩れ落ちたのは私に逆らう者私の敵であった。

27:3 たとえ私に対して陣営が張られても私の心は恐れない。たとえ私に対して戦いが起こってもそれにも私は動じない。

この詩篇作者ダビデは、イスラエルの王です。彼は自分の人生を振り返ります。どんな苦しみの日も、敵から攻撃された日も、主(神)が共にいて、確かに助けられきたことを噛み締めています。

「主よ、いつまでですか」と叫ぶ日もある! でも、苦しみ時は永遠ではありません。振り返れば、神さまの時と御手が共にあったと思ひ起こすことができます。ですから彼は、**主は私の救い。主は私のいのちの岩。どんな戦いが起こっても恐れないし動じない。**と確信して告白します。私たちの生活も同様ではないでしょうか。苦しみや悩みは波のように押し寄せてきます。でも、最も苦しかった時、なぜあの人と出会えたのかというような経験を、神さまを通して振り返る時、神の恵みに目が開かれることでしょう。

1節、主は私の光、私の救い。

この「光」は創世記の一番最初1:3にある「光あれ」の「光」です。ただの光ではなく「存在」を意味します。闇の中では存在が分かりません。私たちも、心が真っ暗になると自分を見失ってしまいます。でも、神さまからの光が来ます! その時、闇は打ち破られます。神のみことばが心を照らします。そして私は神に愛されている大切な存在なのだと閃くのです。「主は私の光です!」このことばを、主(神)と自分の魂に向かって告白しましょう。心にいのちの光が灯ります。「主は私の光、私の救い。」と繰り返しましょう。

4節-7節

27:4 一つのことを私は主に願った。それを私は求めている。私のいのちの日の限り主の家に住むことを。

主の麗しさに目を注ぎその宮で思いを巡らすために。

27:5 それは主が苦しみの日私を隠れ場に隠しその幕屋のひそかな所に私をかくまい岩の上に私を上げてくださるからだ。

27:6 今私の頭は私を取り囲む敵の上に高く上げられる。私は主の幕屋で喜びのいけにえをささげ主に歌いほめ歌を歌おう。

27:7 聞いてください主よ。私が呼ぶこの声を。私をあわれみ私に答えてください。

4節～6節 1～3節は過去の恵みを振り返りました。今度は現在の願いと祈りです。「私のいのちの日の限り」は、「生きている間ずっと」と読めますが、「与えられている一日一日」と受け取りたいです。なぜなら、「いのちの日」がいつまで続くかなど誰にも分からず、神さまの時の中に隠されています。ですから、「私のいのちの日の限り」の強調点は、「ずっと」より「今日一日」にあると言えます。

4節の「主の家」と「宮」は同じことの言い換えですが、これは神殿とか教会という建物というより、神さまがおられる所、臨在して満ちておられる場所を意味します。あなたが神さまを見上げ、祈り、讃美し、神さまに聴き続けるなら、あなた自身が、主の宮・主の神殿となるのです。

私たち一人ひとりが、主の住まれる主の宮(神殿)とされる時、私の心は主の栄光に照らされ、主の御声が響き、力が湧いてきます。

不安やおそれは、それでも繰り返し襲ってきます。

9節、どうか御顔を私に隠さないでください。あなたは私の助けです。見放さないでください。見捨てないでください。ダビデでさえ、こう叫ばざるを得ませんでした。しかしダビデは10節で、たとえ両親が私を見捨てたとしても、主は決して見捨てることがない。あなたは私を取り上げてくださいます。と、神の確かさ真実さに信頼します。

悩み苦しき闘いは、決して止むことはありません。それが人生です。でもその時、真の神さまを知っているのか、知らないのかで全然見え方が違ってきます。

ダビデは、たとえ両親が私を見捨てたとしても(これは比喩的な強調です)、**主は決して見捨てることがない。あなたは私を取り上げてくださいます。**と神に信頼します。親は愛の象徴ですね。でも悲しいかな人間には限界があります。最後まで頼れるのは両親でもない。まして自分でもありません。しかし神には限界がありません。たとえ死の底からでも私を引き上げてくださるのです。そのことを先取りして告白していく。その時、天が開き、光と希望、生きる力と勇気が注がれてきます。主が、あなたの心に光を届けてくださいますように。そのような人生を求める方は、どうぞ教会の門を叩いてみてください。

日本聖契キリスト教団

酒匂キリスト教会

牧師 勝俣慶信

〒256-0816

小田原市酒匂3-13-8

TEL 0465-47-3282

